

# 2023年度 事業報告書

2023年4月1日～2024年3月31日

法人名：一般社団法人 ぴおねろの森

## 1, 事業総括

「すべてのこどもに居場所を」を理念に掲げ、今年度も「安心できる居場所と温かいごはん」をコンセプトに、手作りのごはんを安定的に提供でき、食を通して、人との繋がりを実感し、回復や成長に貢献できたように感じます。不登校の増加に比例し、登録人数も60人を超え、平均通所人数も30人前後となり、密集環境に苦しむ子も増え、騒音問題もあり、来春、移転ができるように進めています。1月から、移転候補先の森の開拓を、子ども達と進めています。自分達で自由に開拓できる環境は、子どもの創造力を刺激し、本来もっている力を呼び起こす起爆剤になっているようにも感じます。移転はキャパの課題解決だけではなく、子どもの力を最大限伸ばし、最高の教育環境を準備したいという、ぴおねろの思いでもある。為、移転資金も含め、乗り越えるべき課題は多々ありますが、実現に向けて、前進していきたいと思っています。一方で、十分な人件費をお支払いできない状況が継続し、人材確保がさらに困難になりつつあります。次年度は、居場所を守る為に、会費の値上げも検討していく必要があります。

## 2, 事業実施内容と成果

### ①フリースクール運営事業

- ・ 内容：不登校の児童生徒に居場所の提供、昼食の提供、様々な体験活動の機会確保
- ・ 日時：月・火・金
- ・ 場所：ぴおねろの森拠点（印西市）
- ・ 従業員人員：理事6名・無償ボランティア7名
- ・ 受益対象者：フリースクールを必要としている児童生徒
- ・ 活動実績：通算年112日開室・登録人数65人・年間利用のべ2743人
- ・ 事業の成果

安定的に昼食の提供ができたことで、人との繋がりを実感できる場を継続的に作る事ができました。また、「子どものやってみよう！」を形にする「子ども企画」では、好奇心を入口にした学びを展開し、生きる喜びを実感できる場を創出したり、地域にいらっしゃる自分の得意を生かして、子どもの好きを伸ばす「まちの先生」企画も開催し、様々な学びの機会確保に努める事ができました。特に性教育では助産師さんにお越し頂き、より深く、リアルに学ぶ機会を設けることができ、ココハレ祭りでは、「自分達でお金を稼ごう！」をテーマに、企画～実践までを自分達の力で行うことで、自信に繋がる機会を作ることができました。また週に一回開催しているぴおねろ会議では「困り事」について、子ども同士の対話の中から、解決策を導き出すプロセスを踏めるようになりつつあります。

## 【2023年度企画】

- \* 4月：性教育・体育館・誕生祝い
- \* 5月：逃走中・誕生祝い
- \* 6月：市川市動植物園・アクションペインティング・流しそうめん・誕生祝い
- \* 7月：プール・体育館・高校学園祭見学・誕生祝い
- \* 8月：ココハレ祭り出店・誕生祝い
- \* 9月：カラオケ・誕生祝い
- \* 10月：ぷよテト大会・ぶっ壊し道場（瓦割り）・パエリア料理教室・逃走中・誕生祝い
- \* 11月：プログラミングのシステム発表会・体育館・誕生祝い
- \* 12月：お泊まり会・野外手づくりピザづくり・クリスマス会・誕生祝い
- \* 1月：性教育・誕生祝い
- \* 2月：アイシング企画・いちご狩り・誕生祝い
- \* 3月：マイクラコンテスト・ぴおっ茶（茶道）・誕生祝い

## ②保護者支援事業

- ・ 内容：ぴおねろ珈琲（親の会）
- ・ 日時：月に一回 13：30～15：00
- ・ 場所：ぴおねろの森拠点（印西市）
- ・ 従業員人員：理事2名
- ・ 受益対象者：不登校の子をもつ親
- ・ 活動実績：通算年9回開催・年間利用のべ68人利用
- ・ 事業の成果

現在、親支援として、送迎の引き渡し時やLINEにて、活動の様子を共有したり、不安や悩みに寄り添い、支え合える環境づくりに努めてきました。また月一回親の会を安定的に開催できるようになりましたが、子どもの活動時間内での開催に伴い、落ち着いて思いを吐き出せる環境ではなかったり、現状、保護者の参加人数も限られ、すべての親の不安や悩みをキャッチすることは難しい状況です。そこで、次年度は、親の会の開催方法の検討と、よりきめ細やかな伴走支援ができるよう、担当制の導入も検討していきたいと思っています。また登録に至らなかった保護者に対しても、親の会や他団体の居場所、相談窓口を紹介し、「情報提供+繋ぐ」ことに力を入れ、孤立しない取り組みを継続していきます。

### 3, 助成・寄付等の状況

#### ①助成金

令和5年度千葉県社会福祉協議会「子どもの居場所づくり応援事業」10万円/年

「ぴおランチプロジェクト」→食費購入費に利用、前年度に引き続き、安定的で充実した昼食の提供により、子どもの回復に貢献した他、食に興味を持ち、調理に携わる子どもが増加、生活力の向上とともに、貢献感を感じられる機会を生み出すことができました。

#### ②寄付

個人寄付：396,029円

法人寄付：一般社団法人「イクオリティみやび」100万円

### 4, 関係機関の連携

#### ①各学校

出席認定25名 連携校25校 システム導入18校

現在、学校とフリースクールの新しい連携の形「安否確認システム」の導入を進めていますが、導入前よりも情報共有のスピードが速く、連携の密度も濃くなったように感じます。また、今年2月には、デジタル庁が来訪、当団体と印西市内小学校の視察が実現しました。また、今年度は学校に訪問する機会が多く、逆に学校長自ら、ぴおねろに足を運んで下さるケースも増え、顔が見える関係が増えつつあります。引き続き、チームで子どもの安全・回復・成長を見守る仕組みづくりに努めていけたらと思っています。

#### ②印西市

9月には、市教委の指導課長、教育センター所長と「誰一人取り残さない印西市にするためにはどうしたらいいのか」というテーマで意見交換の場を設けることができました。全不登校児童生徒の約4割がどこにも支援に繋がっていない現状を踏まえ、「早期の情報提供の必要性+繋ぐ」ことの重要性を訴え、当団体が伴走支援に取り組むことを報告しました。（市内教育支援センターのHPに当団体が掲載決定）

#### ③千葉県

千葉県懇談会：7月、3月に参加。2023年3月に「千葉県児童生徒の教育機会の確保を支援する条例」が制定されたこともあり、県内市教委の参加も過去最高を記録。不登校支援、多様な学びの実現に向けて大きなうねりになりつつあります。多くの団体が経済支援を訴える形となりました。（千葉県懇談会とは、県教委、市教委、教育事務所、SSW、千葉県フリースクール等ネットワーク、議員連盟等の定期的な意見交換の場）

千葉県条例：パブリックコメントに当団体の現状、課題を共有し、経済支援の必要性を訴えました。

## 5, その他

### ○メディア

①Kintoneによる最新デジタルインフラを利用した運営モデルが、国内最大級のテクノロジー専用Webメディアを運営している「ITmedia」に掲載されました。

テーマ：「kintoneで連携して子どもの成長を見守る！フリースクールDX事例ぴおねろの森」

②千葉日報（2023年9月刊行）

～地域偏在や人件費課題に～フリースクールの運営費の補助創設望む声

### ○発表

日本フリースクール大会（3月）・子どもの居場所大会（3月）

「フリースクールDX事例・ぴおねろの森の実践（安否確認システム含む）」

### ○千葉県フリースクール等ネットワーク

不登校の子どもの権利擁護、セーフガーディング「指針」「行動規範」が完成しました。

当団体はこの指針と行動規範に同意し、次年度、全スタッフに共有、教育に努めます。